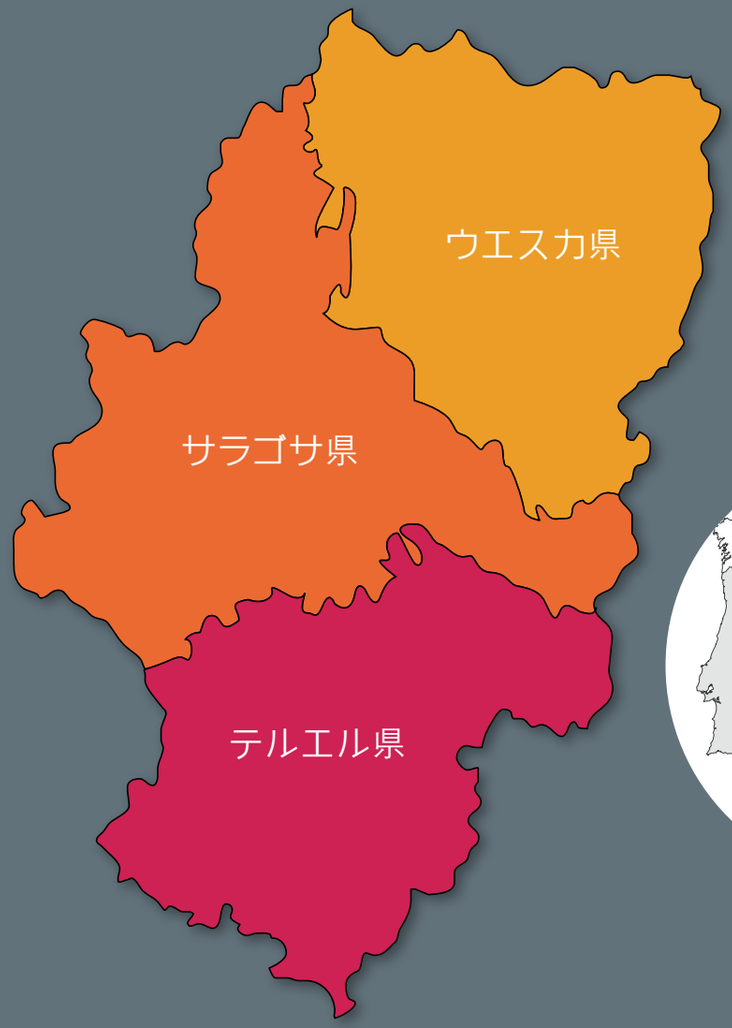
アラゴン自治州

ウエスカ県
サラゴサ県
テルエル県



アラゴン―新しいスペインに出会う

アラゴンは、イベリア半島の北東部に位置する自治州です。ウエスカ県、サラゴサ県、テルエル県の三県からなり、47,719 km^{2}の面積に、約130万人が暮らしています。

アラゴン自治州の最大の特徴は、交通の要所として発展してきた歴史です。北部ウエスカ県に連なるピレネー山脈はヨーロッパへの交通路として機能し、中部サラゴサ県を流れるエブロ川は北スペインの主要都市と内陸部を繋ぎ、南部テルエル県に広がるイベリコ山系はカスティーリャ地方と地中海沿岸を結ぶ重要な中継地点として発展しました。これらの地理的な好条件により、イベリア人、ローマ人、西ゴート族、イスラム教徒、ユダヤ教徒、キリスト教徒がこの地を行き交い、足跡を残しました。特に、アラゴン文化の結晶であるロマネスク建築群とムデハル建築群は、現在も大切に保存されています。

変化に富む景観も見どころです。標高3,000m級の峰々が集うピレネー山脈、ステップ気候の砂漠、多くの恵みをもたらす豊かな平原、深い森、切り立った岩山、雄大な渓谷が共存しています。

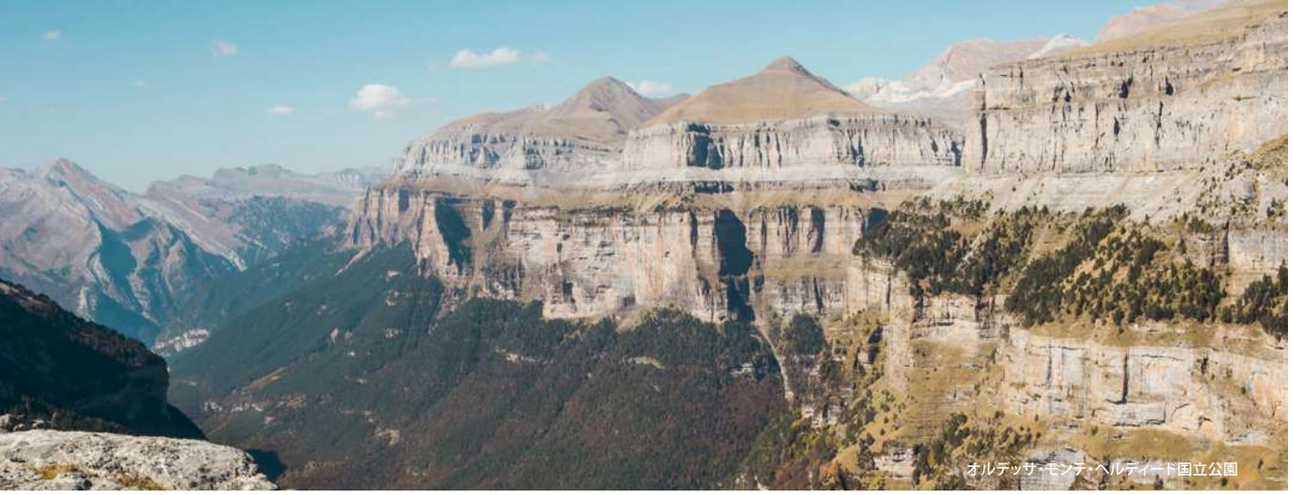
食文化も外すことはできません。寒暖の差の激しい畑でたくましく育ったぶどうを使用したワイン、豊かな牧草を食べて育った仔羊、太陽をたくさん浴びた果物、乾燥した土地で熟成された生ハムなど、大地の恵みを堪能しましょう。

大自然の中で田舎の風景と中世の面影がひっそりと佇むアラゴンを舞台に、新しいスペインを知る旅に出かけましょう。

サラゴサの聖母ピラール大聖堂とエブロ川

目次

2 アラゴン州地図
3 目次
4 自然－ピレネー山脈（ウエスカ県）
6 自然－プレピレネー山脈（ウエスカ県）
7 自然－イベリコ山系（サラゴサ県とテルエル県）
8 文化遺産－ロマネスク様式
9 文化遺産－ムデハル様式
10 文化遺産－ウエスカ県
11 文化遺産－サラゴサ県
12 文化遺産－テルエル県
13 美しい村－ウエスカ県
14 美しい村－サラゴサ県
15 美しい村－テルエル県
16 食文化
18 お祭り
20 アラゴンへのアクセス
21 モデルルート



オルデッサ・モンテ・ペルディード国立公園

ピレネー山脈（ウエスカ県）

スペインとフランスの国境であり、全長約450㎞に及ぶピレネー山脈。スペインでは、バスク州、ナバラ州、アラゴン州、カタルーニャ州にまたがっています。アラゴン・ピレネーには他の地域に比べて標高の高い山が集中しており、標高3,000mを超えるピークが50以上あります。手つかずの自然の中で暮らす野生動物や、この地に残る伝統的な文化遺産は、アラゴン・ピレネーを唯一無二の存在にしています。雄大な山脈に刻まれた渓谷を、ひとつひとつ訪ねます。

オルデッサ・モンテ・ペルディード国立公園

オルデッサ・モンテ・ペルディード国立公園は、アラゴン・ピレネーの同義語と言えるでしょう。モンテ・ペルディード山（3,355m）の周囲から延びる4つの谷（オルデッサ圏谷、アニスクロ峡谷、エスクアイン峡谷、ピネタ圏谷）からなり、ユネスコの世界遺産に登録されています。自然の保存状態、山岳地帯の圧倒的な景観、豊かな植物相と動物相により、イベリア半島で最も美しい場所のひとつと言われています。

国立公園の真髄は自然の宝庫、オルデッサ圏谷にあります。氷河が作り出したU字谷の中央にはアラサス川が流れます。深い森の中を、静寂に包まれた迫力ある岩壁を、時には滝となり、時には平穏な川となり流れる姿は、昔からフランスやスペインの自然愛好家たちを魅了してきました。トロサル・デ・マージョ岩壁や、エストレッチョ滝、ソアソ滝、ブナの森、コラ・デ・カバジョ滝などを鑑賞できるハイキングルートがおすすめです。

エスカロナ村からアクセス可能なアニスクロ峡谷は、ベジョス川によって大地に深く刻まれた岩壁からなり、迫力あるランドスケープを楽しむことができます。エスクアイン村から入る、エスクアイン峡谷は自然の力を見せつけられる実例であり、ひっそりと流れるジャガ川が美しい景観をつくり出しています。ビエルサ村から入るピネタ圏谷は、氷河が作り出した穏やかで牧歌的なU字谷です。力強く続く尾根と森に覆われた斜面が広がる谷は、トレス・ソローレス連山の名で親しまれる3,000m級の山々（モンテ・ペルディード山、マルボレ山、ソウム・デ・ラモンド山）まで伸びています。

オルデッサ・モンテペルディード国立公園は、ピレネー山脈の動物相と植物相の見本です。ブナやマツからなる深い森、マスやイモリが泳ぐ透き通った川や湖、山岳地帯の切り立った岩壁、空を飛ぶハゲワシやヒゲワシ、そして春に咲き誇る小さな高山植物。ハイキング・トレッキングコースを歩きに、ピレネーの小村を巡りに、一度は訪れたい自然の宝庫です。

オルデッサ・モンテ・ペルディード国立公園

アンソ渓谷・エッチョ渓谷

アラゴン・ピレネーの西部に位置し、なだらかな景観が特徴的なアンソ渓谷とエッチョ渓谷は、ピレネーの伝統家屋が残る数少ない渓谷です。ベラル川、アラゴン・スボルダン川、オシア川、エスタルン川、ルビエラ川が流れるこの地域は、圏谷、U字谷、山岳地帯の湖など、氷河によって形造られた地形が広がります。

アラゴン渓谷

アラゴン・ピレネーの中で最も観光化を遂げた渓谷の一つが、アラゴン渓谷です。最北部にはソンポルト峠が位置し、サンティアゴ巡礼路がフランスからアラゴン州へと延びています。巡礼路は、アラゴン川に沿うように渓谷全体に続いており、中心都市ハカを通りナバラ州へと延びています。

テナ渓谷

アラゴン・ピレネーの中央に位置するテナ渓谷は、ピレネー山脈のなかでも最大級の面積を誇り、標高の高い山岳地帯に囲まれた風光明媚な谷です。ここでは、美しいピーク、森、湖が、人びとと共存しています。ビスカス、オス・デ・ハカ、トラマカスティージャ・デ・テナ、パンティコッサ、ラヌーサ、サジェン・デ・ガジェゴなどの小さな山村が絵葉書のような景色をつくり出します。

アンソ渓谷

ベナスケ渓谷

アラゴン・ピレネー西部に位置するベナスケ渓谷は、人間が立ち入りにくい地理条件から“隠れた渓谷”と呼ばれてきました。手つかずの自然が残るその景観は、他の渓谷とは一線を画しています。ポセッツ・マラデタ自然公園にそびえるピレネー山脈最高峰のアネト峰（3,404m）はベナスケ渓谷を静かに見守っています。

登山コース

アラゴンには様々なレベルや経験値に適した登山コースがあります。登山コースは長距離トレイル（GR）と短距離トレイル（PR）に分けられ、前者は白と赤のライン、後者は白と黄色のラインで表示されます。長距離トレイルは、様々な地域を結び、総距離は数百キロに及びます。一方、短距離トレイルは、町や山小屋などを目的地としており、特定の地域を歩きます。縦走やアルパインクライミングのコースも豊富です。充実した山小屋のネットワークが登山の幅を更に広げるでしょう。ピレネー山脈の中でも特に標高の高い峰々が集うアラゴン・ピレネーは、山を愛するすべての人が楽しめる自然の宝庫です。

オルデッサ渓谷

マージョス・デ・リグロス

モンカーヨ山

プレピレネー山脈（ウエスカ県 ）

プレピレネー山脈はピレネー山脈とエブロ川流域の中間に位置する、1,000m～2,000m級の山脈です。標高ではピレネー山脈に及ばないものの、その独特の地形により、ラフティングや沢下り、パラグライダー、ハイキングなど様々なアクティビティが楽しめる素晴らしい場所です。ピレネー山脈から流れる川が、山を削りつくり出したダイナミックな景色の中でも、特に人気のスポットをご紹介します。

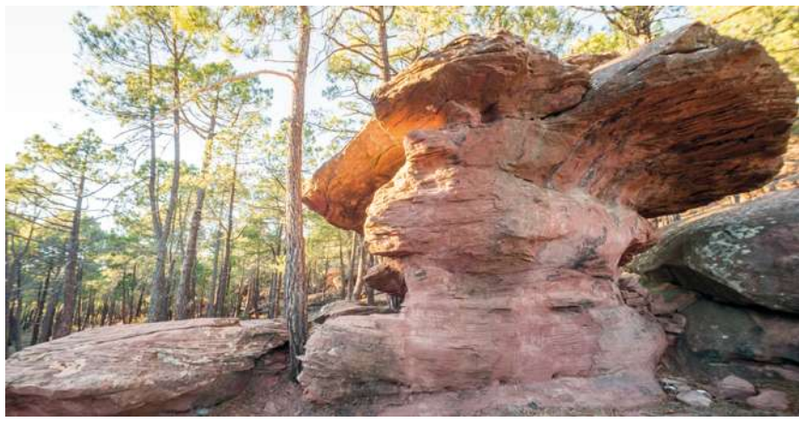
イベリコ山系（サラゴサ県・テルエル県）

スペインの6つの自治州にまたがるイベリコ山系は、イベリア半島を流れる多くの川の源流がある、半島で最も重要な山系のひとつです。その大部分がサラゴサ県とテルエル県に位置しています。どこまでも続く広大な耕作地帯に描かれる緩やかな山の稜線と、自然と人の暮らしが共存してきたこの土地ならではの風景に会いにゆきます。

プレピレネー山脈とアーモンドの木

ベーロ峡谷

モンカーヨ山


ロデノの松林

グアラ山脈・峡谷自然公園

この自然公園は、アラゴン州のプレピレネー山脈の中で最も重要なグアラ山脈に位置しています。公園内にはシンカ川の支流、アルカナドレ川、ベーロ川が流れています。ウエスカ市近郊の岩壁サルト・デ・ロルダンには、中世の騎士ローランが敵に追われながら、岩壁から岩壁へ馬に乗って飛び越えたという伝説が残っています。山脈の南壁はナラの森に代表される地中海性の植物と気候が見られます。この地域で最も特筆すべきは、何千年と続く水の浸食と石灰岩の風化により形成された、深い峡谷です。水の魔法にかかった数多くのガリ（雨裂）、洞窟、滝を楽しむことができます。

マージョス・デ・リグロス

マージョスとは、アラゴン語で「岩壁」を意味します。マージョス・デ・リグロスはアラゴンで最も有名かつ独特な景観の一つです。300mに達する赤茶色の垂直な岩石形成は、まるで巨人のような佇まいでリグロス村を見守っています。野鳥の貴重な生息地としても知られ、シロエリハゲワシやアカトビ、ワシ、エジプトハゲワシが上空を飛んでいる姿を見ることができます。隣接する岩塊マージョス・デ・アグエロもハゲワシの重要な生息地として知られています。ふたつの岩塊の間には美しいガジェゴ川が流れ、夏はラフティングなどのアウトドアスポーツを楽しむ人で賑わいます。

モンカーヨ自然公園（サラゴサ県）

ウエスカ県のピレネー山脈とプレピレネー山脈から一変、サラゴサ県に入ると標高が下がり、ステップ気候の乾燥した空気とエブロ川流域の寒気が際立つ気候に変わります。エブロ川流域とカスティーリャの荒野に位置するモンカーヨ自然公園には、イベリコ山系最高峰のモンカーヨ山（2,313m）がそびえています。オークの林や松林などの多様な植物に囲まれたハイキングコースを歩きながら、たくさんの驚きを見つけましょう。秋には、ヨーロッパ最南端に位置するブナ林の一つが、山を美しく彩ります。晴れの日は、山頂からピレネー山脈やイベリコ山系の素晴らしい眺めが一望できます。

アルバラシン連山（テルエル県）

謎めいたテルエル県の自然は旅人の期待を裏切らない驚きを与えてくれます。その一つが県南西部に位置するアルバラシン連山です。高原にあたるこの地域では、標高が1,000mに上がり、タホ川、トゥリア川、フカル川など、イベリコ山系を代表する河川の源流があります。アルバラシンの近くに位置する、「ロデノ松林景観保護区」（ピナレス・デ・ロデノ）は見逃すことのできないスポットです。赤茶色の断層崖には、カイガンショウの松林が広がり、その中に点在する先史時代の壁画も有名です。ハヤブサやワシミミズク、ノロジカが生息する自然豊かな山脈を訪ねましょう

ロア―レ城

アラゴンの文化遺産 －ロマネスク様式とムデハル様式

サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院

ロマネスク様式－石の宝石

古くから、アラゴンはロマネスク建築がイベリア半島へ伝わる入り口の一つでした。ピレネー山脈を越え、イタリアやフランスから最新の建築技術が伝えられたため、スペインの中でも最も重要なロマネスク建築群が残る場所の一つとして知られています。8世紀以降、ピレネー山中で端を発した、キリスト教徒がイスラム教徒の支配する土地を征服するため領土を広げてゆく過程の中で、ロマネスク建築は礼拝堂や教会、大聖堂、修道院として建てられました。半円アーチや重厚な切り石、素朴で表現力豊かな彫刻装飾が主な特徴です。

アラゴンの三大ロマネスク建築はサン・フアン・デ・ラ・ペーニャ旧修道院、ロア―レ城、そしてハカの大聖堂です。

また、ピレネー山脈の渓谷もロマネスクの驚きを秘めています。サン・ペドロ・デ・シエサ修道院（エッチョ渓谷）、サンタ・マリア・デ・イグアセル教会やサン・アドリアン・デ・ササベ旧修道院の教会（アラゴン渓谷）、セラブロ教会群（テナ渓谷）などです。

ウエスカ市には、サン・ペドロ・エル・ビエッホ教会に美しい回廊が残っています。ソブラルベ地方には、アインサの教会や、ラ・フエバ渓谷のロマネスク・ルートがあります。イサベナ渓谷には、ロマネスクの宝石であるロダ・デ・イサベナ大聖堂があり、剥きだしの地下礼拝堂や小さくも美しい回廊など見ることができます。

サラゴサ県には、ラス・シンコ・ビージャスという名前のロマネスク・ルートがあります。特に、ソス・デル・レイ・カトリコとウンカスティージョには多くの教会が残っており、古くは二つの王国の国境地帯であったことに由来する、要塞のような外観が目を引きます。

エブロ川を越えるとダローカのロマネスク建築群が姿を現します。この地域で発展したムデハル様式の影響もみられる珍しい建築です。

セラブロ教会群

サルバドール大聖堂

ムデハル様式－二つの文化の融合

「ムデハル」とは、キリスト教徒の国土回復運動の後に、土地を離れず宗教や習慣、文化を維持したイスラム教徒を意味する言葉です。

アラゴンのムデハル建築とは、13世紀、14世紀に現在のテルエル県を中心に花開いた建築様式であり、キリスト教とイスラム教という二つの文化の共存の結晶です。他にはない唯一無二の表現体であることが評価され、2001年にユネスコの世界遺産に登録されました。

ムデハル職人はレンガ、石膏、木材、釉薬といった建築資材を使用し、幾何学模様やアラビア文字、光の明暗を巧みに利用しながら、美を引き出す知識と技術を兼ね備えていました。アラゴンには、これらイスラム教徒の伝統的な建築技術に、半円アーチや尖塔アーチといったキリスト教建築を見事に応用した建築物の数々が残っています。

アラゴンには157つのムデハル建築が現存しています。その中でも、テルエル市にあるムデハル様式の4つの塔（サン・ペドロ教会の鐘楼、サンタ・マリア大聖堂の鐘楼、サン・マルティンの塔、エル・サルバドルの塔）が最も有名です。

また、サラゴサ市では、ムデハル様式の美しい外壁が残るラ・セオ大聖堂や、スペインで最も美しいイスラム建築といわれるアルハフェリア宮殿を訪ねることができます。

サルバドール大聖堂

ルナ城（メソネス・デ・イスエラ）

カンフランク国際駅

ラ・セオ広場

文化遺産（ウエスカ県）

アラゴン州北部に位置するウエスカ県には、ロマネスク様式の建築物が数多く残っています。むかし、イスラム教徒がイベリア半島を支配していた時代、ピレネー山中に逃れたキリスト教徒は、伯爵領や王国を形成しながら、南へと領土拡大を図りました。その時代に建てられたロマネスク建築は、簡素で素朴な雰囲気の中に、歴史の深みを秘めています。険しくも美しい大自然の中で、人の手によって育まれた文化遺産を巡ります。

サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ旧修道院

ハカから数キロの地点に、中世の名建築に名を連ねる修道院が輝いています。初期アラゴン王国の精神的支柱であった、サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ旧修道院です。修道院の名前の由来である大きな岩山（スペイン語でペーニャ）に守られるように建てられ、周りの自然に溶け込んでいます。表情豊かな登場人物とともに聖書の場面が彫られた柱頭が並ぶロマネスク回廊は美しさが際立っています。

ロアーレ城

アラゴン・ロマネスクの宝石の一つであるロアーレ城は、岩場の目立つ高台の中腹に堂々と建っています。ヨーロッパで最高峰の保存状態を保つロマネスク建築のひとつであり、映画の撮影にも使用されたことのある城の内部へ入ると、中世へ時間を巻き戻したかのような感覚を味わえます。標高1,070mに位置する城から見下ろす広大なウエスカ平原の見晴らしは、忘れられない景色となるでしょう。

カンフランク駅

フランスからソンポルト峠を越えて、サンティアゴ巡礼路が通るアラゴン渓谷に、カンフランク駅はあります。大自然の中に佇む駅舎の長さは240mに達し、片面に75枚ずつの扉を持つ20世紀の建築物です。1928年に開通し、1970年までフランスとスペインを繋いだ国際駅は、現在もサラゴサ市から走るカンフラネーロ列車の終着駅として利用されています。

ロダ・デ・イサベナ大聖堂

高台にたつロダ・デ・イサベナ村の趣のある旧市街地を歩くと、11世紀に建設が始まった大聖堂に行き当たります。18世紀に増築された鐘楼と正門のファザードが目を引きますが、ロマネスクの宝石は教会内部に隠れています。むき出しになった地下礼拝堂、壁に残るフレスコ画、石棺にほどこされた目を見張るばかりの彫刻。小さな村のロマネスク様式の奥深さに驚くことでしょう。

サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院

ロダ・デ・イサベナの大聖堂

文化遺産（サラゴサ県）

サラゴサ県は、古くから大西洋と地中海、スペインとヨーロッパを繋げた交通の要所です。マドリードやバルセロナ、バレンシア、ビルバオなどの主要都市の中間に位置するこの街は、ローマ時代から現在まで常に物流の中心都市として栄えてきました。早くに国土回復運動がはじまったウエスカ県に比べ、イスラム文化の足跡が鮮やかに残っているのも見どころです。ひと、もの、文化の交差点、サラゴサ県を巡ります。

ゴヤ像

ローマ遺跡

ピエドラ修道院

サラゴサ市

サラゴサ市は、ローマ帝国初代皇帝アウグストゥスによりカエサラウグスタという植民市として建設され、スペインを代表するローマ帝国都市として栄えました。市内では城壁や公共広場、浴場、そして当時最大級であった劇場を見学することができます。
アルハフェリア宮殿は、スペインで最も美しいイスラム建築とも言われています。11世紀のイスラム君主の宮殿、14世紀のムデハル宮殿、15世紀末のゴシック‐ルネサンス様式の宮殿が混在する究極の宝石です。カトリック両王の王座の間は必見です。
聖母ピラール大聖堂は、サラゴサを象徴する建築物です。スペインで布教活動をしていた聖ヤコブ（スペイン語でサンティアゴ）の前に柱（スペイン語でピラール）に乗った聖母マリアが現れた伝説を起源とする大聖堂は、スペインで最大規模のバロック建築として知られています。その数メートル先に建つ世界遺産サン・サルバドル大聖堂は「ラ・セオ」の名で地元民に親しまれ、ロマネスク様式から新古典主義までの美術様式が集約された「生きる美術史」のような建物です。

ゴヤ・ルート

サラゴサ市の南50kmほどに位置するフエンデトドス村では、画家フランシスコ・デ・ゴヤの生家や版画美術館を見学することができます。サラゴサ市の聖母ピラール大聖堂ではゴヤが作成した2つの天井画、同市のゴヤ美術館ではゴヤ作品のコレクションを見ることができます。

タラソナの大聖堂

サラゴサ市の西90kmに位置するタラソナ市には「スペイン・ルネサンス期のシスティーナ礼拝堂」と称されるサンタ・マリア・デ・ラ・ウエルタ大聖堂があります。ムデハル様式とルネサンス様式の装飾で彩られたゴシック建築を訪ねましょう。

モナステリオ・デ・ピエドラ自然公園

サラゴサ市から112kmに、水と岩が生み出す美しい公園があります。ピエドラ川が造り出す堂々たる滝の数々や湖、洞窟を散策コースを歩きながら楽しみましょう。

テルエル市のトリーコ広場

アルケサル

文化遺産（テルエル県）

アラゴン州南部に位置するテルエル県は、広大な平地と自然豊かなイベリコ山系が美しい県です。マドリッドやバレンシア、サラゴサなどの大都市に囲まれ、見過ごされることの多かった地域ですが、1999年に「テルエルは存在する」というスローガンを打ち出し、見事に観光都市としての発展を遂げました。アラゴン・ムデハル建築の中でもいち早く世界遺産に登録されたテルエル市の4つの塔を筆頭に、見どころの詰まった街を歩きます。

ムデハル様式の4つの塔

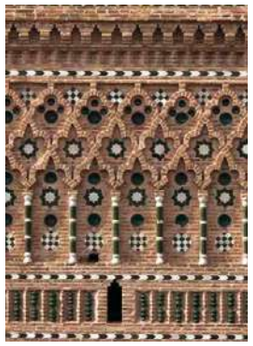
テルエル市の旧市街地にはサンタ・マリア大聖堂の鐘楼、サン・ペドロ教会の鐘楼、サン・マルティンの塔、エル・サルバドルの塔からなる４つの塔があり、「アラゴン・ムデハル建築群」の先駆けとして1986年にユネスコの世界遺産に登録されました。太陽の光できらめく塔にちりばめられた美しい陶器装飾、日暮れと共に影を深める幾何学模様のレリーフ、塔に気品を与える半円アーチや尖塔アーチが旅人を中世へといざないます。

サンタ・マリア大聖堂

13世紀に建てられたムデハル様式の塔が美しい大聖堂に足を踏み入れると、堂々とした格天井が姿を現します。13世紀から14世紀初頭につくられた木製の天井には、アラビア文字、植物、幾何学模様、宗教的なモチーフと共に、中世のテルエルを生きた職人たちが色鮮やかに描かれています。

「テルエルの恋人たち」の霊廟

テルエルには、13世紀に実在したと言われる、イサベルとフアンという恋人たちにまつわる伝説があります。市内にある「テルエルの恋人たち」の霊廟には、身分差ゆえに仲を引き裂かれた二人が眠っています。毎年2月には、街全体が舞台となり、中世の物語が劇で再現されます。霊廟に併設するサン・ペドロ教会では、星空のような美しい天井が旅人を迎えます。



ムデハル様式の塔（同上）

アラゴンの美しい村と町

アラゴンには、時間を巻き戻したかのような風景が残る小さな村や町があります。小規模ながらも、積み重なる歴史と文化を秘めたその姿は、大都市とは異なる魅力を放っています。楽しみ方にルールはありません。中世の足跡を探しながら、ぶらぶらと散策をすると、美しい町角に出会い自然と足が止まることでしょう。自然環境と人間の営みの調和が生み出した、魔法にかかった雰囲気を楽しめる田舎の村や町を訪ねます。

アルケサル

アインサ

アインサ（ウエスカ県）

中世への旅をするなら、アインサほど適した場所はありません。ピレネー山脈から流れるアラ川とシンカ川が合流する高台に、この町の旧市街地は佇んでいます。不規則な形が珍しいポルチコがあるマジョール広場は、スペインで最も美しい広場と言われています。その一角には、30mに達する鐘楼を備えた重厚感あふれるロマネスク建築であるサンタ・マリア教会が建っています。ピレネー山脈の景色に抱かれた風光明媚な中世の町を歩きましょう。

アルケサル（ウエスカ県）

プレピレネー山脈を流れるベーロ川に囲まれた、要塞の町アルケサル。曲がりくねった細い道、川が作り出した天然の彫刻のような峡谷、町の高台に建つ教会が、独特の景観をつくり出しています。旧市街地には小さなマジョール広場や貴族の旧邸宅跡が並びます。教会にはロマネスク様式の回廊が静かに佇み、旧約聖書が描かれた柱頭が旅人を驚きをあたえます。

ハカ（ウエスカ県）

アラゴン王国の古都ハカは、ピレネー山脈と平行して広がる、開けた谷に位置しています。ハカの大聖堂は、スペインの大聖堂の中で最も古い大聖堂のひとつであり、スペイン・ロマネスクを代表する建築物です。ここで生まれたモチーフである「ハカの市松模様」はサンティアゴ巡礼路を通り、北スペイン全土に広がりました。大聖堂に併設する司教美術館では、世界的に重要なロマネスク壁画のコレクションを鑑賞することができます。16世紀末に建てられたシウダデーラと呼ばれる五角形の城郭も見どころです。

ウンカスティージョ

アルバラシン

ソス・デル・レイ・カトリコ

ソス・デル・レイ・カトリコ（サラゴサ県）

サラゴサ県の北西部、ナバラ州との州境近くに、中世の姿を残すソス・デル・レイ・カトリコがあります。石畳の道、石造りの家々、木製のひさし、門を飾る紋章、ゴシック様式やルネサンス様式の窓が、旅人を遠い昔へ導きます。町の中心部に位置するサダの館は、1452年にフェルナンド2世（カトリック王）が生まれた場所としても有名です。ロマネスク様式のサン・エステバン教会ではゴシック様式の鮮やかな壁画を見ることができます。

ウン・カスティージョ（サラゴサ県）

ソス・デル・レイ・カトリコから数キロの場所に、ウンカスティージョはあります。12世紀のスペイン・ロマネスクの最高峰と謳われる教会群が残っていることで有名です。7つのロマネスク教会や城壁の跡、旧ユダヤ人街、城館が、町の時間を止めるように建っています。サンタ・マリア教会のロマネスク彫刻やサン・マルティン教会のロマネスク美術センターは必見です。

ダローカ（サラゴサ県）

サラゴサ県南部に位置するダローカは、城壁に囲まれた城郭都市です。中世の門をくぐると、時代を飛び越えたかのような錯覚に陥ります。旧ユダヤ人街や聖餐布を保管するサンタ・マリア教会、ゴシック様式の壁画が残るサン・ミゲル教会、ロマネスク様式とムデハル様式が混在するサント・ドミンゴ教会とサン・フアン教会が見どころです。

ダローカ

アルバラシン（テルエル県）

テルエル市から車で約30分の場所に、アルバラシンはあります。「スペインで最も美しい町」のひとつに選ばれる町では、バラ色に輝く旧市街地が忘れることができない景観をつくり出しています。木材と赤い石膏の壁からなる家並みや裏道、いびつな形の階段、木製のバルコニー、頑丈な鉄細工、長い庇が折り重なった風景は、山間部の町の歴史を静かに伝えています。

バルデロブレス（テルエル県）

テルエル県東部に位置するバルデロブレスでは、マタラニャ川にかかる石橋とそれに続くサン・ロケの門が旅人を旧市街地へと導きます。旧市街地の高台には堂々たる城とゴシック様式のサンタ・マリア・ラ・マジョール教会が町を見下ろすように建っています。道に迷いながら、歴史映画の舞台のような町中を歩きましょう。

ルビエロス・デ・モラ（テルエル県）

テルエル県南部に位置するミハレス川がつくる渓谷に位置している、美しく絵になる村です。旧市街地とそこにある建物はこの町の豊かな歴史を語ります。市庁舎やゴシック様式の旧取引所などが見どころです。

バルデロブレス

アルバラシン

ミランベル

ルビエロス・デ・モラ

テルエルの生ハム

アラゴンの食文化

アラゴンは、伝統料理から最先端の料理まで、幅広い食文化を誇ります。豊かな大地で育った新鮮な食材、最高品質を保証する原産地呼称を認められた生ハムやラム肉、太陽をたくさん浴びたブドウを使ったワイン、アラゴンの味が凝縮された素朴な郷土料理の数々。ミシュランの星付きレストランや地元民の集まるバル街にも足を延ばしましょう。食すことでわかるアラゴン料理の奥深さに出会えます。

トリュフ

サフラン

チーズ

アラゴンの食材・食料品

アラゴンには、この土地だからこそおいしく育つ食材があります。アラゴン料理でよく使われるボラッハという野菜や黒トリュフ、サフラン、ドライトマト、はちみつ、様々な産地のチーズです。各地の銘菓も外せません。ウエスカ市のパステル・ルソという薄い生地のケーキや、アルムデバル村のトレンサというパイ、栗をイメージしたマジパンなどが有名です。

アラゴンの原産地呼称

スペインにはデノミナシオン・デ・オリヘンという原産地呼称制度があり、最高品質の食料品の裏付けとなっています。バッホ・アラゴン地方のオリーブオイルやカランダの黄桃などは、その土地の気候と伝統の中で受け継がれてきた大地の味です。テルエルの生ハムとアラゴンの仔羊は、アラゴンを旅するならば、必ず試したい食材です。テルエル県北部では、寒さと乾燥という独特な環境条件により、古くから高品質な生ハム生産が行われてきました。天然の飼料を食べて育った豚から作られるテルエルの生ハムには、県のシンボルである八望星が刻印されています。カッティングすると、きめ細かく入った脂身と輝くような薄いピンク色が際立ち、口に入れると塩気を抑えた上品でなめらかな甘みが広がります。
アラゴンの仔羊は、母乳と穀物のみで育った生後90日以下の8〜12kgの仔羊を指します。オーブン焼きや炭火焼きで食べると、臭みのない上品で柔らかなラム肉が引き立ちます。アラゴンには、スペイン全国だけではなく世界中の美食家たちに愛される食材が揃っているのです。

アインサ

ワイン

近年、アラゴンで特に人気が出ているのはワイン・ツーリズムです。アラゴンには、原産地呼称が認められた4か所のブドウ栽培・ワイン醸造地があります。ウエスカ県のソモンターノ地方、サラゴサ県のカリネェナ地方、カンポ・デ・ボルハ地方、カラタユ地方です。ソモンターノ地方はエブロ川流域とピレネー山脈に挟まれた小気候に属し、他の産地に比べるとブドウの成熟が早いという特徴があります。サラゴサ県の3つの産地を特徴付けるのは、ガルナッチャ（グルナッシュ）です。アラゴン州を原産地とするこの黒ブドウは、飲みごたえのある深い酸味と渋みが特徴です。
バスツアーやワイナリー見学、試飲などを体験することができる「ワイン・ルート」も充実しています。産地によって異なるワインの味を一口一口味わいながらアラゴンを巡るのもよいでしょう。

タパス巡り

タパス（一口おつまみ）はスペインの食文化には欠かせない食べ物です。バル（立ち飲み居酒屋）では様々な種類のタパスを楽しむことができます。各バル自慢の一品から、スペイン全国で愛される定番の一品まで、タパスの種類は数えきれないほどあります。バル街に足を踏み入れ、ワインを片手に地元のひとと肩を並べてアラゴンの味に舌鼓を打ちましょう。
州都サラゴサには旧市街地の一角にエル・トゥーボと呼ばれるバル街があります。沢山のバルがひしめきあう、入り組んだ路地を歩きながら、マッシュルームの名店、コロッケの名店、アンチョビの名店など、各バル自慢のタパスを味わえます。テルエル市の旧市街地やウエスカ市のパドレ・デ・ウエスカ通りも、いつも活気に包まれています。また、これらの都市では、毎年タパス・コンクールが開催され、参加者はおいしいタパスに一票を投じることができます。

ワインツーリズム

アラゴンの郷土料理

アラゴン料理は素朴な調理法が特徴です。今なお食卓を彩る伝統料理をご紹介します。家庭料理には欠かせないボラッハという野菜は、アサリやムール貝などと一緒にあえて、さっぱりといただきます。古くから保存食品として重宝されてきた鱈は、ニンニクがきいたバカラオ・アル・アホアリエロ、アラゴンの仔羊はオーブン焼きなど、食材にあった調理により、その味が最大限に引き出されます。鶏肉をトマトソースで煮込んだチリンドロン風の鶏肉は素朴ながらも深みのあるソースが味わい深い一品です。

イサベルの結婚式

アラゴンのお祭り

自然の絶景や豊かな文化遺産に加えて、一年を通して各地で開催される、お祭りも見どころです。人々の暮らしの中に深く根付き、生命と伝統に満ちたこれらの行事は、地元の人々の盛り上がりだけではなく、スペイン国内外の観光客をも魅了しています。セマナ・サンタ（聖週間）に代表される宗教行事に由来するお祭りや、史実や伝説に由来するお祭りなど、様々なお祭りがある中で、特に人気のあるお祭りをご紹介します。

聖母ピラール祭り（サラゴサ市・10月）

サラゴサのピラール祭りは毎年10月に9日間に渡り、大勢の参加者と数多くの文化行事、宗教行事とともに開催されます。最も重要な宗教行事は、12日に行われる聖母への献花です。伝統衣装に身を包んだ人々が花束を手に、ピラール広場に設置された献花台まで歩く姿は、見る人全てを圧倒させる迫力を持っています。また、13日の夜に行われるガラスのロザリオ行列は、夜の暗闇に光り輝く300以上の灯と15台の山車が旧市街地を練り歩く行事です。多彩な色を放つガラス細工は賑やかなお祭りを一時、神秘的な雰囲気で包みこみます。その他にも、アラゴンの伝統舞踏ホタのリサイタルやコンサートなど様々なプログラムを楽しむことができます。

サン・ロレンソ祭り（ウエスカ市・8月）

ウエスカ市の守護聖人であるサン・ロレンソ（聖ラウレンティウス）を祝うサン・ロレンソ祭りは毎年8月9日から15日まで開催されます。街は普段の落ち着いた姿から一変、白い服と緑のスカーフに身を包んだ人々が行き交うお祭りムードとなります。ロス・ダンサンテスと呼ばれるウエスカの伝統舞踏のパレードや闘牛などが見どころです。また、チリンドロン風の鶏肉はお祭り期間に食べられる伝統料理として親しまれています。

イサベルの結婚式（テルエル市・2月）

毎年2月に開催されるイサベルの結婚式を再現するお祭りは、「テルエルの恋人たち」の伝説に基づくものです。近年、更に知名度の上がったこのお祭りは、多くの地元の人と観光客で賑わう一大イベントに発展しました。お祭り期間中、テルエルの街は13世紀へ時計を巻き戻します。当時の衣服をまとい、身分差ゆえに引き裂かれたイサベルとフアンの物語を紐解きます。劇場と化した街で、中世への旅を楽しみましょう。

ピラール祭

サン・ロレンソ祭り

アラゴンを旅するためのヒント

マドリッドとバルセロナの中間に位置するアラゴンは、アクセスの利便性が高い地域です。交通の要所であるサラゴサは、スペインの代表的な都市と高速列車・バスで繋がっています。自然・文化・歴史・美食など、目的に合わせてアラゴンの旅を楽しみましょう！

アラゴンへのアクセス

アラゴンへの移動は、県都であるサラゴサ市 (Zaragoza)、
ウエスカ市（Huesca）、テルエル市（Teruel）を起点に行うと便利です。

ウエスカへの行き方

マドリッド・アトーチャ駅	→	高速列車AVE	→	約2時間半
バルセロナ・サンツ駅	→	高速バス	→	約4時間
サラゴサ・デリシアス駅	→	高速バス	→	約1時間
レリダ	→	高速バス	→	約2時間半

ウエスカ

サラゴサへの行き方

マドリッド・アトーチャ駅	→	高速列車AVE	→	約1時間半
バルセロナ・サンツ駅	→	高速列車AVE	→	約1時間半
ビルバオ	→	高速バス	→	約4時間
サン・セバスチャン	→	高速バス	→	約3時間半
パンプローナ	→	高速バス	→	約2時間半

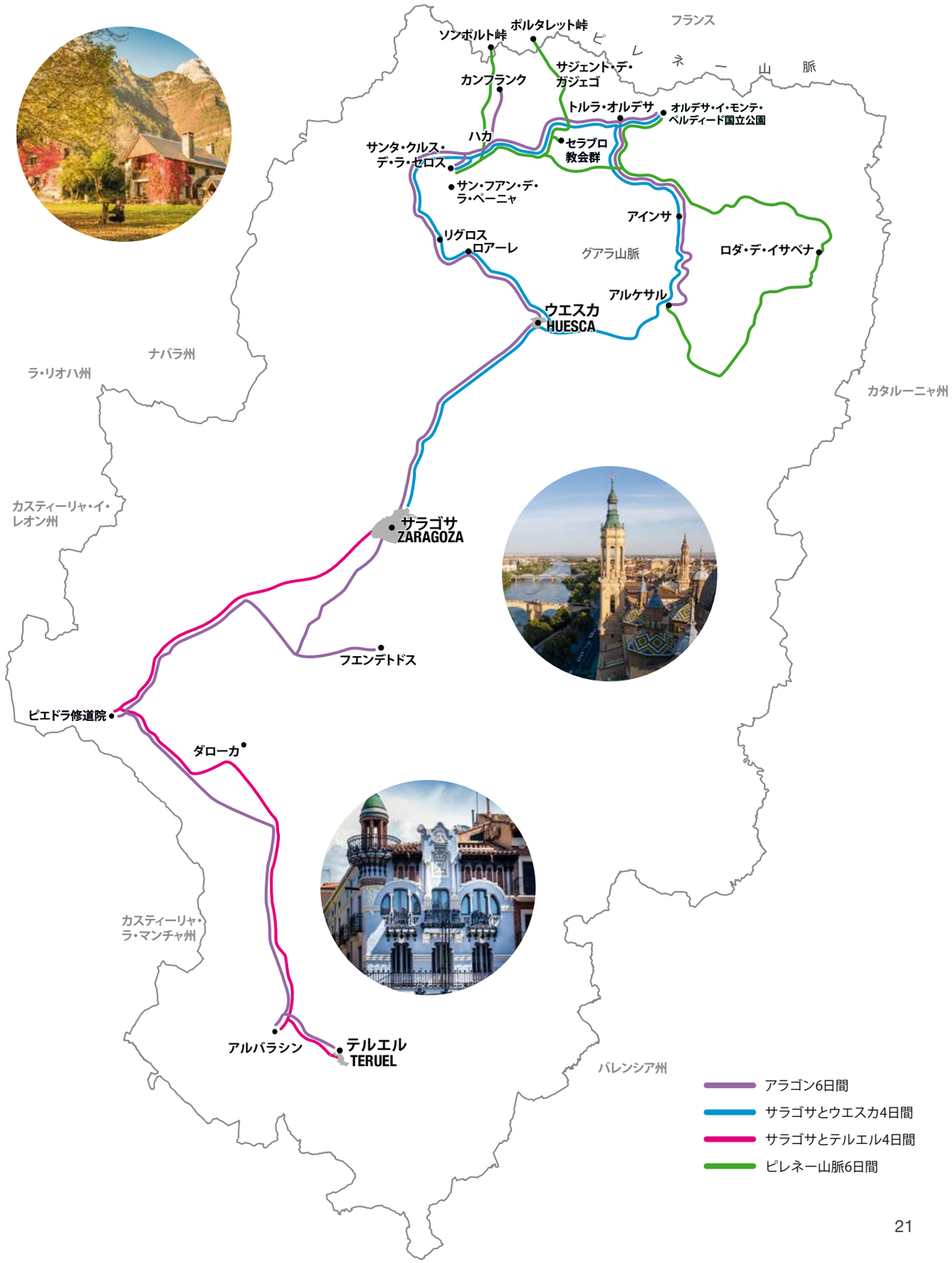
サラゴサ

テルエルへの行き方

サラゴサ・デリシアス駅	→	列車	→	約2時間半
バレンシア	→	列車	→	約2時間半
バレンシア	→	高速バス	→	約2時間

テルエル

アラゴンを旅するためのモデルルート



ピラール大聖堂とエブロ川（サラゴサ）

アラゴン 6日間

アラゴンの自然と文化をまるごと満喫するルート。ピレネー山脈の山岳地帯からエブロ盆地を進み、イベリコ山系へ。大自然が育んだ暮らしの温もりが、美しい村・小さな教会・賑やかな市場・バル・大聖堂など、風景の端々に感じられるアラゴン決定版のコースです。

ラ・セオ広場（サラゴサ）

1日目｜アルケサル → アインサ

「スペインで最も美しい村」に登録される2つの村を訪ねます。イスラム教徒によってつくられたアルケサルの町は、ベーロ峡谷のハイキングとサンタ・マリア教会が見どころ。アインサでは、中世の趣を留める旧市街の散策とピレネーの眺望を楽しみましょう。

2日目｜アインサ → オルデサ国立公園 → カンフランク → ハカ

世界遺産に登録される自然の宝庫オルデサ・イ・モンテ・ペルディード国立公園。ハイキングや標高2000mに位置する眺望台巡りなど楽しみ方は様々です。登山口の町トルラに立ち寄り、サンティアゴ巡礼路「アラゴンの道」が通るアラゴン渓谷へ。「ピレネーの貴婦人」と称されるカンフランク国際駅や巡礼路最大の宿場町であるハカの大聖堂など文化遺産も目白押し。

アインサ

アルケサル

3日目｜ハカ → サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院 → リグロス → ロアーレ → ウエスカ

アラゴン・ロマネスク建築の至宝であるペーニャ修道院では、アラゴン王国の歴史を紐解いてみましょう。ピレネー山脈からプレピレネー山脈へ山を越えるとオリーブやサクランボ、アーモンドの木々が広がる風景に変わります。高さ300mのリグロスの奇岩や欧州最高峰の保存状態を誇るロマネスク様式の古城・ロア―レ城を訪ね、県都ウエスカへ向かいます。

オルデサ国立公園

5日目｜サラゴサ → フエンデトドス → ピエドラ修道院 → アルバラシン

フエンデトドスではスペインを代表する画家ゴヤの生家と版画美術館を鑑賞し、ピエドラ修道院では水景と木々から成る美しい庭園を散策。断崖絶壁と城壁に囲まれた歴史香るアルバラシンは、スペインで最も美しい村のひとつ。赤茶色の町並みは朝・夕・晩いつ眺めても、心が躍ります。

ピエドラ修道院

6日目｜アルバラシン → テルエル

旅のしめくくりは、テルエル県の都。小高い丘の上に佇む旧市街には世界遺産に登録されるムデハル建築が建っています。三つの宗教が共存した歴史を伝えるムデハル様式の4つの塔をはじめ、大聖堂やトリーコ広場が見どころです。原産地呼称を持つ「テルエルの生ハム」もぜひお試しを。

アルバラシン

4日目｜ウエスカ → サラゴサ

ウエスカ市では、ロマネスク様式の回廊が見事なサン・ペドロ・エル・ビエッホ教会や美しい衝立彫刻が飾られた大聖堂を訪ねましょう。州都サラゴサは、ピラール大聖堂、サルバドル大聖堂、アルハフェリア宮殿など、見どころ満載。夜は旧市街の「エル・トゥーボ」地区でのバル巡りをお忘れなく。

サン・マルティンの塔（テルエル）

マーラス・デ・リグロス

アルバラシン

サラゴサとウエスカ4日間

スペインを代表する交通の要所サラゴサから旅をスタート。スペイン第五の都市は世界遺産建築・バル・美しい旧市街など見どころが満載。アラゴン北部のウエスカ県では、ロマネスク建築や長い歴史を誇る古都に出会います。ピレネー山脈の大自然とのどかな田舎の風景の中でのんびりとした時間を満喫できます。

1日目｜サラゴサ

聖母ピラール大聖堂を起点に旧市街を散策。世界遺産のサルバドル大聖堂やローマ時代の遺跡群、見事な版画コレクションを誇るゴヤ美術館、旧市街の路地、「エル・トゥーボ」の愛称で親しまれるバル地区でタパス巡りがおすすめです。アルハフェリア宮殿にもぜひ足を延ばしてみてください。

2日目｜サラゴサ → アルケサル → アインサ

スペイン第五の都市を後に、ウエスカ県へ。全国に約100か所ある「スペインで最も美しい村」の中でも高い人気を誇るアルケサルとアインサを訪ねます。イスラムの香りが漂うアルケサルと重厚な石造りのアインサの対照的な美しさをのんびり歩きながら満喫してください。

アインサ

ロアーレ城

3日目｜アインサ → オルデサ・イ・モンテ・ペルディード国立公園 → トルラ → ハカ

ピレネー山脈を代表する自然の宝庫オルデサ国立公園では、日帰りハイキング・登山・標高2000mの眺望台巡りが人気。登山口であるトルラ村を散策したら、アラゴン王国の古都ハカへ。大聖堂、ロマネスク美術のコレクションが有名な司教美術館、星型要塞を訪ねてみましょう。夜はバル巡りへ。

4日目｜ハカ → サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院 → リグロス → ロアーレ城 → ウエスカ

ピレネーの大自然に忽然と現れるペーニャ修道院はアラゴン・ロマネスクの傑作。プレピレネー山脈を越えると、高さ300mのリグロスの奇岩がお出迎え。欧州最高峰の保存状態を誇るロア―レ城で歴史の流れに思いを馳せ、古都ウエスカではコンパクトで歩きやすい旧市街を散策しましょう。

サラゴサとテルエル4日間

スペインを代表する交通の要所サラゴサから旅をスタート。スペイン第五の都市は世界遺産建築・バル・美しい旧市街など見どころが満載。アラゴン南部のテルエル県へ進むと、イベリコ山系の荒涼とした大地で世界遺産ムデハル建築や美しい村に出会います。

1日目｜サラゴサ

聖母ピラール大聖堂を起点に旧市街を散策。世界遺産のサルバドル大聖堂やローマ時代の遺跡群、見事な版画コレクションを誇るゴヤ美術館、旧市街の路地、「エル・トゥーボ」の愛称で親しまれるバル地区でタパス巡りがおすすめです。アルハフェリア宮殿にもぜひ足を延ばしてみてください。

2日目｜サラゴサ → ピエドラ修道院 → ダローカ → アルバラシン

スペイン第五の都市を後に、ピエドラ修道院へ。美しい水景と植物からなる庭園を散策コースが人気です。中世の趣を残す小さな町ダローカに立ち寄り、スペインで最も人気のある美しい村のひとつであるアルバラシンへ。朝・夕・晩、いつ眺めても絵になる魔法にかけられた村です。

ピエドラ修道院

サン・マルティンの塔（テルエル）

3日目｜アルバラシン

赤茶色の町並みをくぐりぬけ、町を散策。マジョール広場・旧大聖堂・フリアネータの家・城壁・川沿いのハイキングコース・歴史博物館・町が一望できる眺望台など、時間をかけてのんびりと訪ねたい町角がたくさんあります。

4日目｜アルバラシン → テルエル

テルエル県の都はムデハル建築の宝庫。世界遺産に登録されているムデハル様式の鐘楼4つが旧市街地を飾ります。大聖堂やテルエルの恋人たちの霊廟、トリーコ広場など見どころがたくさん。本場テルエルの生ハムはぜひお試しを。

アインサ

ピレネー山脈 6日間

スペインとフランスの間に連なるピレネー山脈の自然と美しい村を訪ねるコース。名山が集まるアラゴン・ピレネーを歩いて・登って・食べて・見て、五感で満喫してください。スペインの「隠れた秘境」ピレネーへようこそ!

サンティアゴ巡礼路

サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院

1日目｜ソンポルト峠 → ハカ

サンティアゴ巡礼路が通るアラゴン渓谷から旅をスタート。静かで穏やかな谷には自然はもちろん、カンフランク国際駅やビジャヌア村、アラゴン王国の古都ハカなど文化遺産もたくさん。列車・バスを利用して車窓の旅も楽しめます。

3日目｜サジェント・デ・ガジェゴ → ポルタレット峠 → セラブロ教会群 → トルラ

フランスとの国境を成すポルタレット峠からは、中央ピレネーのシンボルであるオッソー峰が一望できます。テナ渓谷の里山の景色を眺めながら、セラブロ教会群を訪ねます。更に谷を越えて、旅は中央ピレネーの心臓部へ。雄大な山岳風景に囲まれた小村トルラへ到着です。

2日目｜ハカ → サン・フアン・デ・ラ・ペーニャ修道院 → サンタ・クルス・デ・ラ・セロス → サジェント・デ・ガジェゴ

アラゴン・三大ロマネスクに数えられるハカの大聖堂とペーニャ修道院。千年の時を越えて保存される素朴で美しい建築をご覧ください。山麓の小村サンタ・クルス・デ・ラ・セロスに立ち寄り、ピレネー山脈で最大級の規模を誇るテナ渓谷へ。魔女伝説が語り継がれる、風光明媚な村サジェント・デ・ガジェゴを散策しましょう

テナ渓谷

ピレネー山脈6日間

オルデサ渓谷

セラブロ教会群

4日目｜トルラ → オルデサ・イ・モンテ・ペルディード国立公園 → アインサ

世界遺産に登録されるオルデサ国立公園へ。ハイキング・縦走・2000mの眺望台ルートなど、楽しみ方は様々。山小屋を利用して、フランスのガヴァルニー圏谷へ国境越えもできます。自然をたっぷり満喫したら、ピレネーが誇る美しい村アインサへ。小高い丘の上に立つ古い街並みを歩き、中世へタイムスリップしましょう。

6日目｜アルケサル → ウエスカ

アルケサルの旧市街からベーロ峡谷ハイキングへ出発!村を囲むエメラルドグリーン色のベーロ川を眺めながら、天然の彫刻のような谷を歩く2時間ほどのコースです。ウエスカではサン・ペドロ教会や大聖堂が建つ旧市街を散策。バル巡りも楽しめます。

5日目｜アインサ → ロダ・デ・イサベナ → アルケサル

アインサの他にもピレネーには美しい村がたくさんあります。ロダ・デ・イサベナでは、ロマネスク様式の大聖堂を見学しましょう。スペインでは珍しい堂内の造りに思わず驚くはずです。イスラム教徒が築いたアルケサルは迷路のような町とサンタ・マリア教会が見どころです。

アルケサル

www.turismodearagon.com/ja/

ARAGÓN

turismo
sostenible

サステナブル　ツーリズム

アラゴン

スペインの秘境

美しい村

ピレネー山脈

のどかな風景

TURESPAÑA

GOBIERNO DE ARAGON